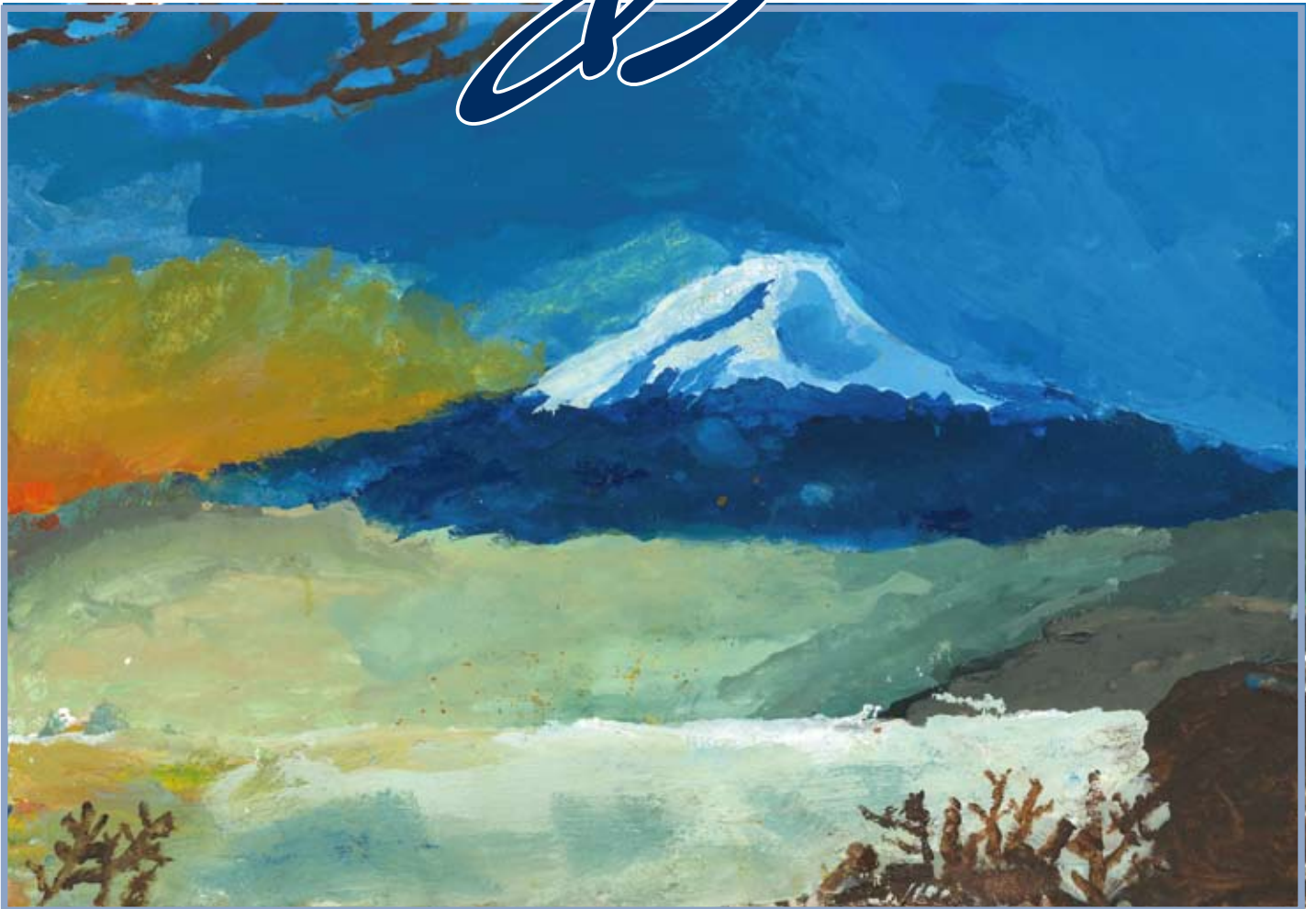


スポット

- ・ 新年あいさつ
- ・ 事業所活動報告
- ・ 研修報告
- ・ 新人紹介

あかつき



第74号 2018年1月1日発行
 発行／編集 社会福祉法人 あかつきコロニー
 〒208-0023 東京都武蔵村山市伊奈平 1-64-1
 ☎ 042-560-7840
<http://www.akatuki.or.jp> Email:soumu@akatuki.or.jp

絵：宮下誠一(瑞穂町福祉作業所さくら)
 「初日の出・富士」

新年あいさつ



理事長

鈴木 賢一

新年明けましておめでとう
ございます。

あかつきコロナーが昭和43年
9月に社会福祉法人として正
式に認可されて、今年で丁度
50年になります。

そこで今回は、初期のあかつき
コロナーについて私の思い出を
主に記します。

あかつきコロナーは、設立当
初は、あかつきの家と言いま
した。名前の由来は、私の父の
友人で作家の川内康範氏が、
「西に太陽の家があるなら、東
にあかつきの家があっても良い
のではないか」と名付けられた
そうです。当法人の発起人の
メンバーを見ると、父の友人ば
かりでした。まずは池田潤之
輔です。彼は元横綱吉葉山で、
横綱白鵬の在籍する宮城野部
屋の先代親方であります。そ
の関係で父は宮城野部屋の初
代後援会会長でした。次に落
語家の三遊亭円歌です。円歌

師匠は昔の名前を歌奴といい、
「山のあな、あな」という落語
で有名になった人です。法人創
立30周年の記念式典では、円
歌師匠に公演して頂きました。

昭和47年に父善四郎が二代
目理事長となりました。父は、
時の大蔵事務次官鳩山威一郎
氏と非常に懇意にしていまし
た。鳩山氏に日産自動車を紹介
して貰い、その下請け会社か
ら自動車のオイルエレメントの
仕事を頂くようになりました。
これが今でも就労支援事業の
主要な柱の一つとなっています。
そして昭和49年から52年にか
けて、波多野家及び日産自動
車からの寄付、自動車振興会、
船舶振興会、武蔵村山市の補
助金により、夢のような鉄筋コ
ンクリート造りの二階建、四階
建の建物が次々と完成しまし
た。「あかつきコロナー」と名称
も変え、完成した施設は、二人
部屋15室と医務室、相談室、エ

レベーター、冷暖房設備を備え
ており、当時としては画期的
な施設でした。

そんな中、昭和53年8月8日
に父が亡くなりました。私は勤
めていた会社を辞め、父の会社
を継ぎました。そして、あかつ
きコロナーの理事になりました。

初めて理事会に行く時は大
変でした。教えられたのは電車
で立川駅迄行き、三ツ藤住宅
行きのバスの終点に着いたら
電話をして車で迎えに来ても
らつて下さい、という事でした。
言われた通りに向かいました
が、上野の私の家から、二時間
ほどかかりました。何故父がこ
んなに遠い所まで通っていたの
か不思議でした。理事の皆さん
は私を非常に歓迎してくれま
した。創設期のメンバーで後に
第四代理事長となった川上幸一
氏から、どうしても付き合っ
てくれと言われ、立川の駅前に
ある居酒屋へビールを飲みに行
きました。父と川上氏は仕
事の後は必ずその居酒屋に行
き、ビールを飲んだそうです。
川上氏とは、土屋製作所の増
田常務や鳩山威一郎氏の秘書
の大友氏等と永田町の鰻屋で
接待をしました。その後は川
上氏が体調を崩された事もあ
り、あまり飲みに行く事もな

くなりしましたが、川上氏とは、
いずれいつか、あかつきコロナ
ーの理事長をやると約束した
ものでした。

最後に私自身の事について
少し書きたいと思います。写真
は昭和42年、ヨーロッパ留学出
発の際、横浜港で撮影したも
のです。当時、ヨーロッパへ飛
行機で行くのは非常に贅沢で、
船でソ連
を経由し
て行くの
が一般的で
した。横浜
から出航
しナホト
カに着いた後、汽車でハバロフ
スクへ、更に汽車或いは飛行機
でモスクワを経てヨーロッパへ
入るというルートで、到着まで
約1週間かかりました。



ソ連での旅程はお世辞にも快
適とは言えず、船は古くて汚
く食事も酷いものでした。どこ
に行っても軍隊が銃を持って、
非常に怖かったです。

それよりも厄介だったのが、
1ドルが360円だった当時、
外貨の交換が500ドルしか
出来なかった事です。これは概
ね1回の渡航費用の金額です。
クレジットカードがなかった時
代、500ドルしか持ち出しが

出来なかったのです。日本円の
持ち出しは出来ませんが、レート
は1ドル400円程でしか、も
何日も待たされました。その為
留学中は、大学の学生食堂での
皿洗い、通訳やビール工場等
様々な仕事をしました。いずれ
にしる、労働ビザがないので大
体が日雇いの肉体労働でした。

留学は2年に及びましたが、
父の体の心配もあり日本へ戻り
ました。お金もなく、知り合い
もおらず、言葉も話せなかつた
けれど、西ドイツとイギリスで
の留学を終え、帰国した時には
独語と英語を話せるようになり
ました。余談ですが、帰りは学
割を使い飛行機で帰りました。

実は、留学へ旅立つ3年前に
開催された東京パラリンピック
で私は仏語のガイドを経験し
ました。当時は福祉というもの
に殊更関心があったわけでは
ありません。中学、高校と仏語
を学んでいた事でたまたま声
がかかっただけの事ですが、今
こうして改めて思い返してみ
ると、父の事も含め、やはり何か
しらの縁があったという事なの
でしょう。

今回の東京パラリンピックで
は、留学して培った語学力を生
かし、独語のガイドを行いたい
と思っております。



常務理事

高橋 毅

ている状況から、資金の蓄えを優先するため式典は見送らせていただきます。ただし10年毎の記念誌は発行する予定で既に作業を進めています。皆様の協力を得ながら記憶に残る記念誌を作成していきたいと思えます。

あかつきコロナーは今年で50年目を迎えました。半世紀もの長い年数を続けられたことは先人の方々の努力と苦勞の礎があつてのことですが、そこには一言では言い切れないほど命を削りながら法人の創設を行つてこられた歴史があります。今では創設時の結核回復者の方々は皆故人となつてしまいました。

「完全参加と平等」という創設からの理念は「共に働く、共に生きる、共に創る」という理念に引き継がれ、その根底に脈々と流れています。

本年も皆様のご指導、ご協力のもと障害者の就労支援、自立支援に力を注いでいきたいと思つておりますのでよろしくお願いたします。

当法人の創立記念日は9月30日であり、本来なら式典を開催すべきところではありますが、数年後に建物の建て替えを予定し

おらず、新年早々から慌ただしいスタートになりそうです。

さて冒頭にも触れましたが、あかつきコロナーが創立50年を迎えたことは、当然建物が古くなつており、建て替えという大事業をどう進めていくか具体的に検討していく時期に入っています。

最も古い作業棟は築44年になり本館は築41年になります。建て替えの時期としては、耐震改修工事を東京都補助金を受けて2013年度に実施したため、10年後の2024年度を目指しているのの後6年先となるでしょう。また資金的な課題もありませんが、実際の計画で建て

替えていくかも難題です。土地が狭いため、同じ場所に建て替えるとなると工事期間中、どこか間借りして事業を行つていくことになるので、間借りする場所を探していくことになり

ます。また別の土地を探して新築するという選択もあります。セルプあかつきとスペース・まどかが入っている新館はまだ築23年です。この建物の扱いが課題になります。

それからの様な事業を行つていくかも並行して考えていき

ます。現在は就労移行支援と就労継続支援B型での事業を3施設で実施していますが、生活介護を新たに追加する方向で考えています。この地域も同様ですが、やはり重度の障害がある利用者が日中活動として利用できる施設が不足しており、社会福祉法人として取り組むべき課題だと思つています。生活介護の基準を満たした設備を整えるには建て替へ時以外難しいことと、国庫補助も近年ハードルが高くなつており、地域のニーズにあつた事業の拡大も実施していかないと申請対象にもならないと思つています。

ただし生活介護と言つても多様であり、障害種別も考えていく必要があります。重ねていきたいと思つています。6年という年数はあつという間に経ちますので年内には建て替へに向けて動きだしていきたいと思つています。

今年課題として人材育成も進めていく必要があります。あかつきコロナーは現在8つの事業を行つていますが、施設長は50歳代後半に入つており、そろそろ世代交代の時期に入つていくことと、組織の活性化を図るためには

職員全体の底上げが必要となります。あかつきコロナーには有望な職員が各部署に多くいると思つていますが、経営サイドとして立つていくには総合的な資質が求められます。新人・中堅職員は次へのステップアップを意識していただきたいと思つています。

最近感じるのですが、正職員の中で責任をもつことや決断をしていくことを避けている状況がいろんな場面で見られます。当然物事には大小があり、上司の判断無くして進められないことも多くありますが、通常業務の中には自分で判断・決断できる場面もあります。決断は責任が伴うので、気持ち弱いと安易に決断を第三者に委ねてしまふのでしよう。一部署であつても正職員はその部署の責任が常にリーダーとしての意識を持つてほしいと思つています。

そしてその積み重ねが経験を積むということになり、自分の考えを実現していく力に繋がっていくと思つています。成功事例を経験することで自信を持つことができ、失敗してもそれを糧にして次に生かしていく、成長することとはそういうことだと思つています。

おめでとうございます

瑞穂町福祉作業所さくら

早いもので、今年でさくらは8回目の新年を迎えることになりました。これもさくらを支えてくださっている関係者、皆様のご協力、ご支援の賜物と思います。心より感謝申し上げます。

昨年、さくらではいろいろなことがありました。まずは昨年を振り返ってみたいと思います。

まずは、新しい仕事が増えたことです。瑞穂町から公園の清掃を現在1か所担当させてもらっていますが、さらにもう1か所増やしていただくことが出来ました。さくらでは外作業をすることが好きな人が多いので、今回も公園清掃が増えたことで、「とてもやりがいのある仕事が増えて良かった」との声もいただき、喜んでいただくことが出来ました。

また、行事ではさくらとして初めて4月に「イチゴ狩り」に行き、9月にはいつかは行ってみたいと思っていた「スカイツリー」に行ってきました。今回は、今まであまり経験したことのない行事だけに何かワクワクする気持ちが自分自身でもありましたし、皆さんにも少なからずあったように思います。

また、さくらでは第三者機関による第三者評価を実施しています。8月には評価機関による利用者への聞き取りを実施、最終の評価報告は今年の1月頃になりそうですが、そういった第三者評価による評価報告も参考にしながら、更により良いさくらを構築していきたいと思っています。

さて、今年の当初の目標が3点あります。

1点目は、利用者の工賃増額です。そのためには日々の仕事をがんばり、新しい仕事を拡大していくことが必要です。2点目は、一般就労にむすびつけられる人は瑞穂町障害者就労支援センターと連携を持ち、積極的に会社実習等の支援をしていきたいと思っています。何とか会社実習等の動き、実績をつくっていきたいです。3点目は、職員の人材育成とリスクマネジメント、権利擁護の強化です。昨年、さくらには常勤職員2名が入職しました。内外の研修をおこなうながら職員のスキルアップはかり、利用者支援のさらなる充実をはかってきました。また、リスクマネジメントの強化では、「気づき」の視点を持って、常に利用者の安全配慮



みんなで記念撮影

を考えられる人材に一人一人が成長していけるように今年も尽力していきます。

最後になりましたが、吉川英治氏の「我以外皆我師」という言葉が自分は好きです。どんな人からでも学ぶ所があるという言葉だと思います。福祉の現場でも様々な人間関係がありますが、全ての人から学ぶ姿勢を忘れず、さくらの皆さんと一緒に更に成長していきたいと思っています。

(施設長 五十嵐 崇)



見ておいしそう

新年あけまして

あかつき授産所 作業部3課

作業部三課では平成29年4月より新規利用者が2名（男性1名、女性1名）増え、在籍者数は男性利用者5名、女性利用者3名の計8名になりました。また非常勤職員も1人増え、職員、利用者合わせて11名の部署となりました。

作業としましては、「お菓子の箱折作業」を中心に「おしぼり作業」や「おむつのバラ作り作業」、「革製品」の製作など色々な作業を織り交ぜながら日々作業を行っています。特に今年度は革製品の製作に力を入れており、以前より販売しておりましたキーホルダーなどの形や色を増やしたり、商品の種類を増やしたりしました。また今まで職員が行っていた工程の一部を利用者の方に教え、作業として行える部分を増やした事で生産できる個数も上がりました。現在は武蔵村山市民総合センター内にあります喫茶「茶花」と瑞穂町にありますレストランに商品を置かせていただき販売をしています。その他にも武蔵村山市の福祉祭り（9月）や瑞穂町の産業祭（11月）など、地域の祭りでも販売をしました。

また今年度は作業外プログラムとして色々な事に挑戦もしました。今回の誌面では、8月3日（木）に野山北公園で行われました「葛西臨海水族園の移動水族館」と10月2日（月）に行いました「赤い羽根共同募金」についてお話させていただきたいと思います。まず初めに「葛西臨海水族園の移動水族館」についてですが、今回の移動水族館では海の生物に直で触る事が出来るふれあいコーナーが設けられてありました。利用者の方の中には興味津々で生き物に触れる方もいれば、恐怖心から初めは触れなかったが勇気を出して触った方など反応は人それぞれでしたが、普段あまり体験する事が出来ない貴重な体験が出来たと思います。

次に「赤い羽根共同募金」についてですが、今年も例年同様、立川駅の北口にありますルミネの入り口付近で募金活動を行いました。作業部三課は午前中に募金活動を行いました。平日に行った事、また通勤、通学の時間帯ではなかった事かど例年に比べると通行量は少なかったですが、その中でも多くの人に募金をしていただきました。色々な人と話をして交流を図ったり、人前で呼びかけを行ったりとこちらも移動水族館とはまた違った貴重な経験が出来たと思います。

今年も利用者の方に「楽しい」と思っただけのような作業部三課がつかれる様、頑張っていきたいと思っています。

（小俣 俊弥）



募金のご協力、お願いしまーす!!



東京都障害者通所活動施設 職員研修会に参加して

瑞穂町心身障害者(児)福祉センターあゆみ
新庄 弘典

「重度心身障害者の意思決定支援V 利用者の思いを探る観察方法とコミュニケーション」といった内容で研修を受けました。

講師は東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野教授 中邑賢龍氏、東京大学先端科学技術研究センター支援情報システム分野准教授 巖淵守氏、東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野学術支援専門員 赤松裕美氏が話されました。

まず、コミュニケーション技術の基礎として利用者の得意なものを活用してコミュニケーションを図ることが大切である。現在の障がい者はコミュニケーションを中心に考えたと生きにくい世界である。働くためには読み書き、コミュニケーションを求められる為、頑張る間に勉強が遅れる、適応できなければ障がいにするといった感じである。しかし、一方でICT(コンピュータ)などの機器を活用する

と苦手な部分を補える時代になってきている。

今後、消える障がいもある。医療技術の進歩が消す障がいとして、呼吸器や薬の進歩、出生前診断、神経再生治療・遺伝子治療(障がいの様態の変化)、工学的代替技術の進歩、社会インフラの整備などがあり、例えば話すのが苦手でもメールなら伝えることができる知的障がい者の方があげられる。それに伴い身の回りにあるテクノロジーの活用で学習支援を行ったりできるようになってきている。そして、そのテクノロジーを誰でも活用できるようになってきている。

次にコミュニケーションと自己決定として、現在は自己決定重視時代で自己決定。コミュニケーションニーズの高まり、訓練や教育で回復しないなら別の手段を使っても自分の意思で生活できるようにしていくこと。そのため当事者が自分の意思で利用する支援技術(AT・Assistive Technology)

tive Technology)へのニーズの高まり、拡大・代替コミュニケーション(AAC: Augmentative and Alternative Communication)という研究領域が誕生する。

コミュニケーションの基本姿勢としてカウンセリングの技法を活用することも必要である。その次に納得のプロセスの必要性がある。時間をかけて話すうちに自分の気持ちを調整できる。自分で決定し納得させないと常に他者の責任に帰属することになる。その意思疎通を行うために信頼関係が必要である。信頼関係を得るために無駄な時間だと思えることも必要であるとのこと。

実践として「暑い?」と聞いてみるが個々に感じ方の違いがあり答えづらい。寒いを1として暑いを5としてのスケールを使って聞くこと答えやすい、実際に実践としてしゃべれない人が何を訴えているか聞いてみることを行った。障がい重度によって選択が狭まる、何を食べたいか聞いてみるも経験(今までお茶しか飲んだことのない人にお茶とオレ

ンジユースどちらが飲みたいか聞いても分からない)や見通しがないと反応できないなどがある。そこから、相手の意思を正しく読むには技術(テクニクとテクノロジー)が必要であり、技術を使わないコミュニケーションは限界がある。

現場での観察を考えるでは、コミュニケーション能力は同じではない。例えば、自己決定できるがコミュニケーションが苦手な人、コミュニケーションできるが自己決定が苦手な人、コミュニケーションも自己決定もできるが誤解を受ける人、どちらも苦手な人がある。コミュニケーションのポイントとして(1)コミュニケーションできる環境か?(2)外界へ注意は向いているか?(3)コミュニケーションの意欲はあるか?(4)コミュニケーションの話題はあるか?(5)能力に応じたコミュニケーション手段は何か?(6)周辺情報の収集があるか?(7)では多くの人が気にならないが気になる人がいる。(音、光、におい、模様)環境調整とツールの活用を考える。周囲を観察し、刺激が強すぎないか、静かに指示していますか、言葉や予定が

理解できないと不安であり、思わぬ行動に出ることがある。(2)としては、何も反応がないように見える人もいる。自分の世界を楽しんでいるように見える人もいる。その人には分からないので勝手に行動に意味付けすることが多いが観察をして比較することから始める。実践ではペアを組み相手に自分の気持ちを伝えることを行うが課題として「動かせない部位が1か所しかなく、しかも洋服等に隠れている場合で昼食何を食べたいか聞く」を行う。実際には動かせる部位が分からないと分からないが当事者としては一生懸命伝えている。刺激に対する定位反応はあるのか(音、呼びかけに対する反応、目からの物体に対する中止や追従、においに対する反応、接触到に対する反応)知覚機能と覚醒水準の確認をしてみる。(3)できないことが出来なさを生まないように拒否、需要、注意喚起といった反応に対する適切なフィードバックを行い、自分の反応の意識下、因果関係の理解を促す。(4)視覚障害の人とのコミュニケーションに学ぶと言葉だけでなく匂いや色の変化なども注意

を喚起し、話題になる。(5)言葉では分からない人もいる。言葉は理解できても発信出来ない人もいる、絵やシンボルでも分からない人もいる、言葉が分からない人に選択を求めると経験のないものは分からない、試して反応を見ることがポイントで経験して次に見てわかる、聞いてわかるようになる。しかし、当事者がイエスマンであると内容が違ってくるので注意が必要、施設では、嫌なもの2度と出てこない、そのため選択肢がなくなる、コミュニケーション能力がなくなることがあるので注意が必要である。言葉でうまくいかないと直接行動に出てしまい勝手に食べてしまったり、飲んだりすることがある。直接行動は誤解を招くので、言葉に代わる手段(指さし、身振り手振り、写真や絵カード)が必要である。

観察の実践としてスイッチを利用する、パソコンやタブレットのカメラを用いて重度障がいのある人の動きをとらえる。中邑教授の研究はOAK(オーク)で動きを観察して動ける部位や反応を分かるようにできないか研究している。



結論としてコミュニケーションをとるのには個々の能力や表現方法によってとらえ方が違う場合があるので注意が必要であり、この人はコミュニケーションが障がいのためにできないと決めつけるのではなくパソコンなどの機器なども考慮した上で意思疎通を図っていく必要がある。

現在、私はあゆみで活動をしているが今回の研修を通して利用者の方々の表現方法をより細かく見ていき、コミュニケーションを今以上に良好にとれるようにしていきたいと思えます。

救命講習を受けてきました



あかつき授産所作業部2課

増淵 明美

昨年10月30日月曜日に、瑞穂町心身障害者(児)福祉センターあゆみにて救命講習に参加しました。

当日はあゆみの職員を中心に法人職員全体で29名の参加者が集いました。

東京防災救急協会から講師の方に救命処置、気道異物除去、止血法、救急車の利用方法などの講義がありました。傷病者の命を救うために行う「心肺蘇生」「AEDを用いた除細動」「気道

異物除去」の3つの処置を、人形を使って訓練をしました。一つのグループに3名ずつ分かれ救急車を呼ぶ人・AEDを探し持つてくる人・救助を行う人とそれぞれ役割を持ち訓練を開始しました。

訓練とはいえ、大きな声で助けを求め、救助者に声かけをしなくてははいけません。日頃、大きな声など出さないので、少し恥ずかしいなあ等と思っていました。実際にやってみると、必死になって声かけをし、心臓マッサージを行っていました。恥ずかしいなんて思う余裕はありませんでした。

本当に人を救助するとき、一連の救助が冷静に出来るのか、自信がありませんでしたが、最後に東京防災救急協会の方から「二歩前に出て声をかける勇氣を持ってください。」と言われました。

心臓マッサージやAEDの使用の方がわからない人たちはたくさんいます。しかし、救急車を呼ぶ事や助けを求める事など私たちにもできる事があります。短い時間の訓練でしたが、とても貴重な時間を過ごせました。

瑞穂町第五小学校へ出張講義を行いました

昨年11月14日、町内の第5小学校へ講師として行ってきました。5年生の総合の授業にお邪魔して約40名の生徒を前に『障がい者とかかわり』という内容で講義を行いました。今まで父兄や高等部の生徒さん対象の講義は行った事はありましたが小学生を対象にした講義は初めての為、どのようにお話をすればちゃんと伝わるのか、とても心配でした。前日に息子に頼み込み、小学生がどこまで理解できるか試してもらい、下準備をしました。がやはり緊張はしました。

少しでも障がい者の理解を深めて欲しいという想いが、みんなに少しでも多く伝わって欲しいという一心でした。教室に入ると自分の体の大きさに驚き始めたので、興味を示してくれた実感がありません。

講義は一方的に自分だけが話すのではなく、質問形式を多く取り入れて行いました。最初に尋ねた質問は「障がいを持った方のお友達はいますか?」。尋ねた所、結果は0人でした。「授業を聞き終えた後に友達が作れる様にお手伝いが出来たらいいと思います。」と話を始めました。

40分と短い時間の中で飽きさせず、話を聞いてもらい、自分自身で考えてもらうには、質問形式をとり行いました。

生徒の方々は、時には頷き、そして、「そうなんだ!」といった表情を見せてくださり真剣な眼差しで受講してくださっておりました。

先生の要望で内容に発達障がい概要も織り交ぜながら話しましたが、広義的な



瑞穂町福祉作業所 課長 大滝 実

内容だと生徒さんは宙を見上げてしまった為、急遽、切り替えて具体的に事例を挙げて話をした所、興味を示し、活発に意見が飛びあふりました。

このような機会は、自身の成長にも繋がりますし、そこでの出会いにも繋がります。このように地域の皆様のためになる仕事ができるのは本当に良いことだと感じました。

こんな素敵な機会を与えてくださった瑞穂町第五小学校の皆様本当に感謝です。また、いつでもこのような活動はしていきたいと思えます。

ゼンコロ第三回発達障害者支援研究会

セルプあかつき

サービス管理責任者

西出 英高

平成29年12月7日、8日と2日間にかけまして、一般社団法人ゼンコロ第三回発達障害者支援研修会がありました。山形、長野、東京、福岡から16の事業所、26名が参加し、東京都は中野区中部すこやか福祉センターで開催されました。



を行いました。私は2日目午前の時間に、講師として話をさせて頂きました。「セルプあかつきでの取り組み事例」という題で、就労移行支援事業所としての取り組みや、発達障害者への就労支援についての報告を行いました。

発達障害と一括りにしていますが、その中身は千差万別であります。しかし、個人差はあるにせよ障害特性としてはコミュニケーションに難を抱えている方が多い傾向にある障害だと感じております。支援員としてもご本人個々に対応を考える必要があります。現状画一的な支援方法が意味をなさない場面も多く見受けられます。

ここ数年、世間でも良く耳にするようになった「発達障害」とは、学習障害(LD)、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)等の先天的な特性を持った障害です。発達障害のある方の特性や症状の程度は一人ひとり異なるため、必ずしもすべてが当てはまるわけではありませんがいくつかの障害を合併している方もいます。また、気分障害、不安障害、不登校やひきこもり、アルコール依存症等の二次障害を併発している場合もあります。

今回の研修会では3名の講師が講演

今後「発達障害」と診断されていく方は増えていくと言われています。知的障害を伴わない場合は、ご本人自身も含め障害について気が付かない場合も多くあると聴きます。私も職員はこれからの支援の中でより一層柔軟な対応や発想の転換が必要になると改めて感じさせられた研修になりました。

新人紹介



みなさん
よろしくお願
い
しま〜す!



■11月からセルブあかつきに異動しました。
趣味は、手芸で色々な物を作ったりする事と読書です。
どうぞ宜しくお願い致します。

セルブあかつき
江田みづき さん



■平成29年8月から、スペース・まどかと、水曜日に茶花でお仕事させて頂いています。数ヶ月経ちますが、新しい事に日々チャレンジして頑張りたいと思います。
よろしくお願いします。

スペースまどか
舟久保宏子 さん



■11月からスペース・まどかに入社しました。
趣味は野球観戦です。
好きな野球チームは、横浜DeNAベイスターズです。
よろしくお願いします。

スペースまどか
大庭 一茂 さん



■9月末日から福祉作業所さくらにて非常勤職員としてお世話になっております。まだまだわからない事がありますが、皆様からのご指導のもと1日1歩でも多く進んでいけたらと思っておりますので、よろしくお願い致します。

瑞穂町福祉作業所さくら
志田 有紀 さん

主な事柄

8月

3 第三者評価職員説明会 (さくら)

体験ボランティア受入 (さくら)

(さくら 4日迄)

5 水質検査 (法人施設)

中原自治会夏祭り (法人施設)

9 第三者評価聞き取り (法人施設)

10 納涼会 (さくら)

18 火災避難訓練 (あゆみ)

24 地域子ども交流 (法人施設)

9月

10 福祉祭り (法人施設)

12 村山5中学生職場体験受入 (授産所・セルブ14日迄)

15 消防設備点検 (あゆみ)

18 保護者会 (授産所)

22 所内旅行 (さくら)

26 地震避難訓練 (法人施設)

28 地震避難訓練 (法人施設)

30 総合防災訓練・引渡し訓練 (あゆみ)

赤い羽根共同募金 (法人施設)

所内旅行(セルブ・まどか)

10月

13 所内旅行 (授産所)

19 日帰り旅行 (あゆみ)

21 村山デイダラ祭り (法人施設)

26 火災避難訓練 (法人施設)

30 救命講習 (あゆみ)

11 瑞穂町産業まつり (さくら・あゆみ 12日迄)

17 避難訓練 (あゆみ)

22 インフルエンザ予防接種 (あゆみ)

27 理事会 (あゆみ)

9 瑞穂町ふれあいカラオケ大会 (あゆみ・さくら)

11 建築設備定期検査 (法人施設)

13 虐待防止マネジャー会議 (法人施設)

14 評議員会

28 納会・忘年会 (法人施設)

11月

2 制度改革フォローアップセミナー (高橋・遠藤)

3 強度行動障害支援者研修 (新庄 4日迄)

16 瑞穂町就労部会 (戸村)

18 業務連絡会 (熊谷・富田)

多摩障害就労支援連絡会

出張・研修

22	花壇会議 (稲場)	8	ゼンコロ理事会・総会 (高橋 10日迄)	8	業務連絡会 (熊谷・富田)	10月	鈴木 国彦 (まじか)
21	会計基礎実務研修 (松木)	7	ゼンコロ運営委員会 (遠藤 9日迄)	7	「はたらく」部会 (利根川)	9月	福岡 菜央 (セルブ)
20	ISO2015年度移行対策 セミナー (山本・遠藤)	5	東社協総会 (永井)	5	武蔵村山市障害者 「はたらく」部会 (利根川)	8月	舟久保 宏子 (まじか)
19	武蔵村山市相談支援部会 (神山・小室)	7	安全運転管理者講習 (高橋)	1	瑞穂町障害福祉計画 専門分科会 (五十嵐)	10月	志田 有紀 (さくら)
15	内部研修「障害者差別解 消法について」(第1回)	1	瑞穂町自立支援協議会 (高橋)	30	瑞穂町福祉法人連絡会部会 (押川)	11月	江田 みづき (セルブ)
14	「はたらく」部会 (利根川)	30	就労ネット(高橋一・大野)	28	茶花会議 (西出)	12月	大庭 一茂 (まじか)
8	業務連絡会 (熊谷・富田)	27	就労ネット(高橋一・大野)	27	あすはの会事例報告会 (小室・田中・米倉)	12月25日(株)トヨー様よりお 餅のご寄贈を頂きました。謹ん で御礼申し上げます。	吉田 孝子 (給食)
6	発達・依存症研修会 (富田)	26	就労ネット(高橋一・大野)	24	花壇会議 (稲場)	12月	益本千恵子 (本部)
5	会計基礎実務研修 (松木)	25	羽村特別支援校 (西出)	17	瑞穂町生活部会 (高橋)	11月	小山 恵理香 (まじか)
30	相談支援従事者現任者研修 (小室)	23	財務中級研修 (小俣 21日迄)	16	瑞穂町生活部会 (高橋)	11月	小林 信彦 (まじか)
25	花壇会議 (稲場)	20	ゼンコロ交流型技能競技会 (高橋)	15	重症心身障害者意思決定支援研 究会 (熊谷)	10月	江田 みづき (授産所)
24	就労ネット (大野)	18	武蔵村山市自立支援協議会 (高橋)	14	瑞穂町5小講師派遣(大滝)	9月	野本 淳透 (セルブ)
23	武蔵村山市日中活動部会 (永井)	14	発達障害者相談支援研修 (押川・加藤 15日迄)	13	強度行動障害支援者研修 (米倉)	9月	高松 智樹 (セルブ)
23	武蔵村山市自立支援協議会 (高橋)	14	武蔵村山市自立支援協議会 (高橋)	10	業務連絡会 (熊谷)	8月	岡部 雅之 (まじか)
24	北多摩西部通所施設連絡会 (高橋)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	8月	金武 孝子 (さくら)
24	就労ネット (大野)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	13	強度行動障害支援者研修 (米倉)	9月	野本 淳透 (セルブ)
23	武蔵村山市日中活動部会 (永井)	10	業務連絡会 (熊谷)	10	多摩障害者就労支援連絡会 (利根川)	10月	高松 智樹 (セルブ)
23	武蔵村山市日中活動部会 (永井)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	14	花壇会議 (稲場)	10月	中村 功一 (まじか)
28	就労ネット(高橋一・大野)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	14	茶花会議 (西出)	11月	小林 信彦 (まじか)
28	就労ネット(高橋一・大野)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	14	瑞穂町自立支援協議会 (西出)	11月	小泉 幸子 (給食)
28	就労ネット(高橋一・大野)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	14	瑞穂町社会福祉法人連絡会部会 (押川)	12月	小山 恵理香 (まじか)
28	就労ネット(高橋一・大野)	9	強度行動障害支援者研修 (米倉)	14	瑞穂町社会福祉法人連絡会部会 (押川)	12月	益本千恵子 (本部)

入所・退所

寄贈

入所

8月 舟久保 宏子 (まじか)

9月 福岡 菜央 (セルブ)

10月 鈴木 国彦 (まじか)

退所

11月 江田 みづき (セルブ)

11月 大庭 一茂 (まじか)

11月 吉田 孝子 (給食)

8月 岡部 雅之 (まじか)

9月 金武 孝子 (さくら)

9月 野本 淳透 (セルブ)

10月 高松 智樹 (セルブ)

10月 江田 みづき (授産所)

10月 中村 功一 (まじか)

11月 小林 信彦 (まじか)

11月 小泉 幸子 (給食)

12月 小山 恵理香 (まじか)

12月 益本千恵子 (本部)

編集後記

皆様、新年明けましておめでとございます。

今年(戌年)は実を結び終え、草木が枯れた状態を指すそうです。これは次の生命の誕生までの準備期間。ここでしっかりと土壌を休ませ、栄養を蓄えておけば、より豊かな実りへと繋がるということでしょう。

という事で、今年(戌年)は私も無理せずじっくり心身を休めつつ、様々な事を吸収していきたいなあ...と思います。

(E・M)